

「国際児」に対する日米の見解

テイラーアン・美代子・ムーア

カリフォルニア州立大学モントレイ校

要旨

アメリカは様々な民族や人種、文化が混在しているが島国である日本は歴史的に単一民族として知られている。しかし、急速にグローバル化している現在の日本では、国際児の数は確実に増加してきている。日本とアメリカでは国際児はどのような問題に遭遇するのか。そしてその理由は何か。また、日本とアメリカでは国際児をどのように見ているのか、そしてその考え方は何に影響されているのか等に焦点をおき調査を行った。このキャップストーンでは、アメリカ人 48 名、日本人 58 名にアンケート調査を行い、国際児は差別や彼らに対するステレオタイプな考え方、そしてそれぞれ自分のアイデンティティーに悩んでいることがわかった。自身が国際児であるかないかによって、多文化主義に対しての異なった認識があるということがわかり、国際児でない人は国際児が遭遇する問題には理解を示してはいるものの、本当の意味で国際児が遭遇する問題は分からないのが現状であるという結果が出た。国際児に対する人種や民族性に関する認識は、親、友達、メディア等に影響されていることもわかった。

はじめに

アメリカには様々な民族と人種があり、日本にはそれほど多くの民族と人種がない。そうすると、日本人とアメリカ人は混血児や国際児について、どのような気持ちを持っているのだろうか。調査研究の結果によると日本人とアメリカ人と国際児と単一民族は一般的に同じように感じている。加えて、この全員が差別や彼らに対するステレオタイプな判断を受けていた。そして、彼らの考えには様々な物事が影響している。

1. 研究の重要性

私がなぜこのトピックを選んだのかというと、私が日本人とアメリカ人のハーフだからだ。そして、去年、岡山大学に留学したとき、自分のハーフとしてのアイデンティティーを意識するようになった。私がそのような気持ちを持った理由は、日本人の多くが日本を単一民族国家として捉えていると考えたからだ。つまり、アメリカには混血

の人は多くいるが、日本ではあまり多くないというのが現状である。しかし、現代の日本では、ハーフやクォーターの人や国際児に対する考え方が変わって来ているのではないだろうか。

2. 研究質問

1. 日本とアメリカにおいて、国際児はどのような問題に遭遇するのか？
2. 日本とアメリカの人々は、国際児をどのように見ているのか、またその要因は何か？

3. 研究背景

3.1 民族と人種の定義

民族と人種について定義する。なぜ定義が必要なのかと言うと、多くの人が民族と人種には違いがないと考えているからだ。民族は「一定の文化的特徴を基準として他と区別される共同体」を指す（河田、2011）。また、人種とは「人間を分類する用法の1つ」として区別される（山田、2013）。

3.2 日本とアメリカの多文化主義

日本における民族の割合について調査したものである。日本の国勢調査では、民族ではなく国籍を問う。日本に帰化している人、あるいは日本で生まれ育ち、多民族な背景を持つ日本人も、日本の国勢調査では民族的には「日本人」として考えられる（Ministry of Justice Immigration Bureau, 2009）。だから、日本の国勢調査で、日本人は98.5%、韓国人は0.5%、中国人は0.4%、その他は0.6%である（cia.gov, 2004）。そして、アメリカにおける民族や人種の割合について調査したものである。アメリカでは、白人は79.96%、黒人は12.85%、アジア人は4.43%、インド人は0.97%、大洋アジア人は0.18%、二つ以上は1.61%である。その上、「ヒスパニックのグループがない理由は、アメリカの国勢調査ではヒスパニックはどの人種や民族例えば白人、黒人、アジア人で

もいいとしているからで、アメリカの人口のおよそ 15.5%がヒスパニックなのにもかかわらず、ヒスパニックというグループがない (cia.gov, 2004)。

3.3 第二次世界大戦と社会的不明誉

「ジャパンオフォビア」や「ニッポンオフォビア」、「反日」などの言葉は、第二次世界大戦後の 1950 年頃から使われ始めた (Emmott, 1993)。反日的なプロパガンダにより、日本人の人間性が奪われた (Art: The Tokio Kid. Time Magazine, 1942)。つまり、そのプロパガンダは日本人と日系人の誇りを傷つけるために作られた。その上、「日本という国とその国の人々は進化せず常に劣っている」と言うのはその当時の人気がある考え方であった (Navalo, 2000)。

3.4 国際児と日本人のハーフの遭遇する問題

まず、日系アメリカ人の定義は日本人の先祖を持っているということだ。アメリカにおいて、日系人は、日系人としての様々な問題を抱えている。最近ではコミュニティが複雑になってきているので、日本人とアメリカ人の国際児は日系のコミュニティにアイデンティティーを見出すことが出来ない。そして、一世、二世、三世の日系人に対しても、混血と国際児は異なるアイデンティティーを持っている (Kikumura Yano, 2008)。

次にナカシマ氏の“**One drop rule**”によると、混血の人はマイノリティーとされている (Williams-Leon, Nakashima, 2001)。混血児や国際児にとって、“**One drop rule**”は差別的に感じるものである。日本語での「いじめ」は英語の「**bullying**」という言葉より陰湿だと言えるかもしれない (Taki, 2003)。多くの場合、いじめには、否定的な態度で、他の人に屈辱を与えるという意図がある。いじめとは一般的に物理的、口頭的、心理学的、社会的な事象である (Kawagoe, n d)。そして、日本で、「ハーフ」、「ダブル」、「間の子」などの言葉は差別的な言い方だと言われ始めている (Williams-Leon, Nakashima, 2001)。それに類似する言葉として、アメリカではハワイ語の「ハッパ」という言葉があり、これは英語の「フラグメント」を意味する

(Fullbeck, n d)。やはり、ハワイ語の「ハッパ」(フラグメントと言うこと)は否定的なものだが、人によって、「ハーフ」、「間の子」と言うことも否定的な表現だと思う。しかし、「ダブル」は1つ以上のことを持っているので、大抵、好意的な表現だ(マーフィ重松、2002)。

次に、彼らに対するステレオタイプな考え方である。ステレオタイプな考え方には否定的な物と好意的な物がある。まず、否定的な偏見について説明する。国際児は受け入れられるために社会に同化しようとしても、難しい場合が多々ある。外見的に純粋な日本人ではなくなるので、全く違う存在として見られることがあるためだ。顔や姿が良く才能がある国際児だけが、好意的に見られる傾向もある。それはしばしばアイドル化して見られることもよくある。最近では、ハーフの日本人に人気があり、ヘイフレンの著書には「ハーフは皆『かわいい』『バイリンガル』『お金持ち』と思っているあなた。」と書かれている(Haefelin、2012)。自分をハーフだと認識している人たちは、このようなステレオタイプな考え方について嫌悪感を感じている。

ネットで日本人とアメリカ人についての性格のトップテンでよく使う表現を見つけた。日本人にとってそのリストはほとんど肯定的な表現である。たとえば、「礼儀正しい」、「時間を守る」、「やさしい」、「まじめ」などの表現があった(Gerhold、2013)。しかし、そのような言葉でも人を傷つけることもある。例えば、「日本人はいつもまじめ」や「頭が良い」といったものだ。もし、日本人の学生皆が頭がそんなにいいとすると、そうでない人々は一生懸命勉強しないといけない。しかし、仕事に行くとならばその人は過労死をするかも知れない(Ministry of Health, Labor and Welfare, Japan, 2011)。アメリカ人に関しては、肯定的な表現も否定的な表現も両方見受けられる。たとえば、「やさしい」、「心の広い」、「楽観主義」などは大体いい表現である。しかし、「肥満」、「外国の文化に興味がない」、「うるさい」と言うものもある(Murray、2010)。

3.5 メディアにおける多文化主義

メディアが人々の多文化主義に対する考えに与える影響は大きく、メディアが人のアイデンティティの形成に影響することもよくある。メディアが伝えることが、シンボルや仮説を作り上げ、アイデンティティの根源になるからだ。たとえば、ダルビッシュ・有と言う有名な野球選手や土屋・アンナと言う有名なモデル兼女優である。

しかし最近、日本でミス・ユニバースの日本代表が選ばれた。このミス・ユニバースは日本人とアフリカ系アメリカ人のハーフだ。これを問題だと考える人はまだ多くいる一方で、彼女が日本の代表として選ばれたことは、日本社会が変わってきている象徴だと思う。

4. 研究

4.1 研究の対象

この調査には58人の日本人と48人のアメリカ人、合計106人にアンケート調査を実施した。

4.2 研究方法

アンケート調査用紙を日本語と英語で作成し、オンラインでデータを集めた。

5. 結果

5.1. 研究質問 1：日本とアメリカにおいて、国際児はどのような問題に遭遇するのか。

5.2. 差別

図 1：「混血の家族を見ると、不快な気持ちになる。」

「単一民族国家は純粋な民族の国だから多民族国家よりも単一民族国家の方が良い。」

「あなたの国の仕事場において、様々な人種や民族性を持つ人材を一定数雇用すべきである。」

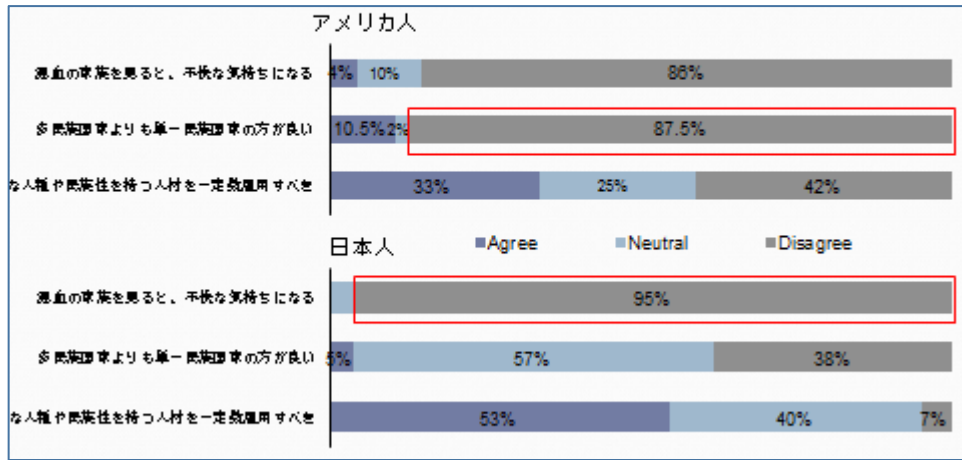
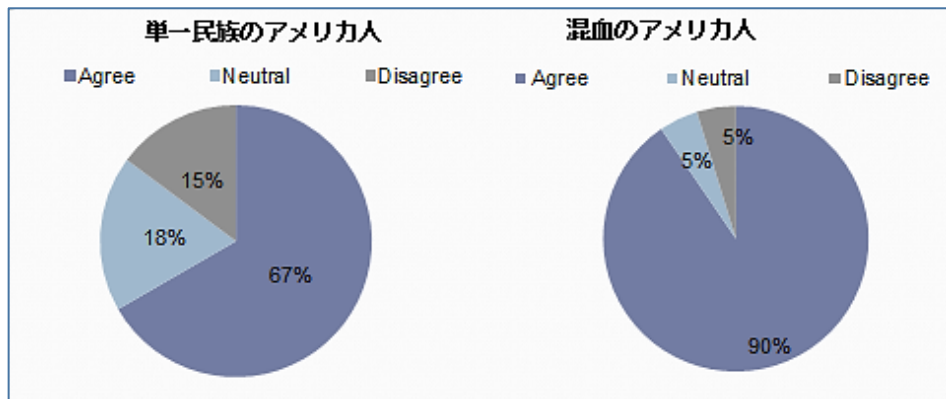


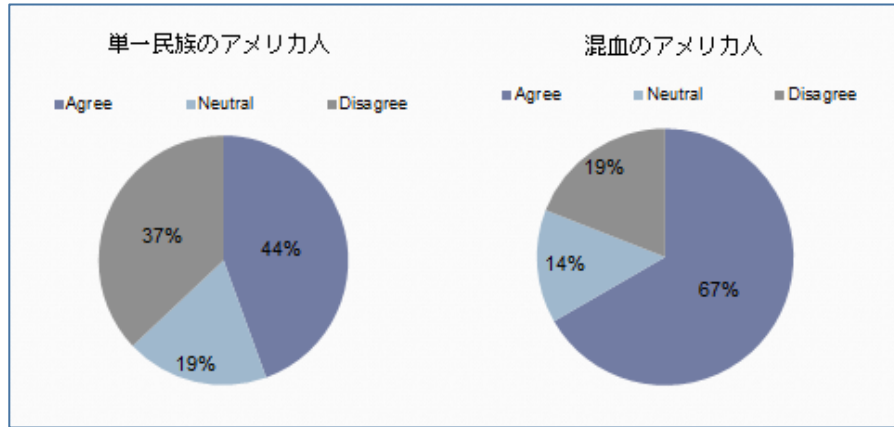
図 1 から分かるように、調査の参加者から、人々は国際的な背景を持つ家族について、オープンな考え方を持っている。アメリカ人と日本人も一般的に差別的なことを答えなかった。そして、両者は単一民族国家のほうが良いと思っていなかった。

図 2：他人は外見から私の人種、民族性を判断する（アメリカ人）



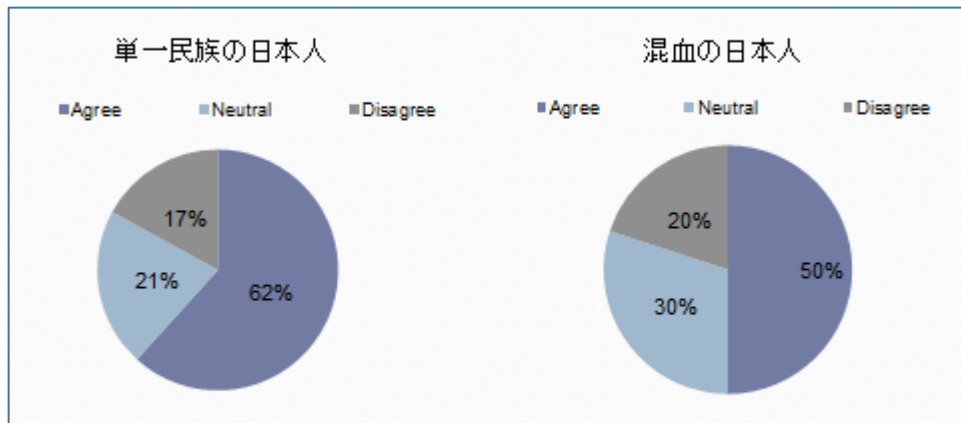
単一民族と混血のアメリカ人は「他人は外見から私の人種、民族性を判断する」という質問に、皆はほとんど賛成した。だから、国際児や混血の人と単一民族の人は両方そのような差別を受ける。そして、単一民族より国際児の方がステレオタイプを差別だと感じていた。

図 3：他人から差別を受けたことがある（アメリカ人）



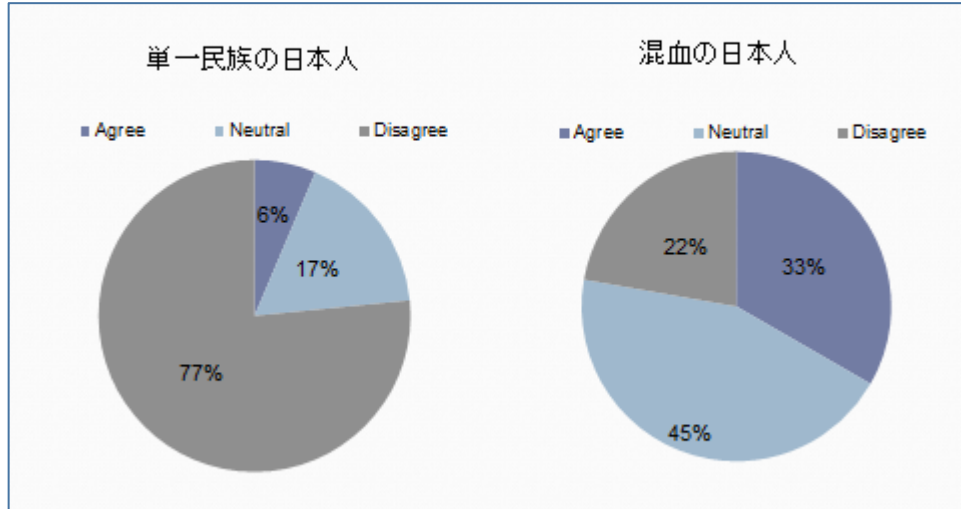
しかし、半分以下の単一民族のアメリカ人は民族についての差別を受けたことがない。その上、半分以上の混血のアメリカ人は差別を受けたことがある。

図 4：他人は外見から私の人種、民族性を判断する（日本人）



両者はその質問に賛成をした。しかし、図 5 から分かったことはその気持ちは「差別」ではない。私はなぜ判断することは差別かと理解できなかった。

図 5：他人から差別を受けたことがある（日本人）



両者ともステレオタイプを少し感じているが、単一民族の日本人は差別をされているとは思っていない。混血の日本人は45%は中立だと感じた。理由はたぶんアンケート調査に参加した人は日本人とアジア人のハーフだからだ。彼らはアジア人に見られる。しかし、日本人とイギリス人のハーフ人は賛成した。だから、日本で、アジア人に見られれば差別を大抵受けない。

図 6：多様な民族性と人種を持った人はいじめを受けやすいと思う

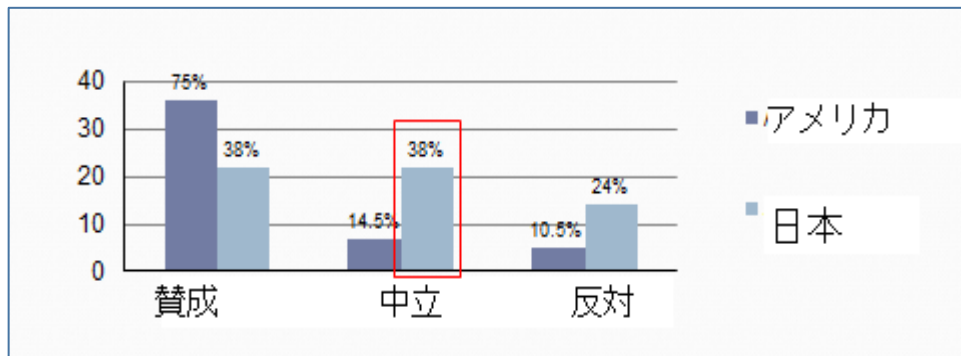


図 6 から分かったことは、アンケートに参加した日本人は単一民族であることに自覚を持っているのに対し、38%が「中立」を選んだ。おそらく彼らは、民族などに関して個人的に考えた経験が少ないためだと考えられる。しかし、日本でいじめは大きな問題だから、38%も賛成した。

5.3. アイデンティティーの問題

図 7: 一つのアイデンティティーを選ばなければならない気持ちがある。

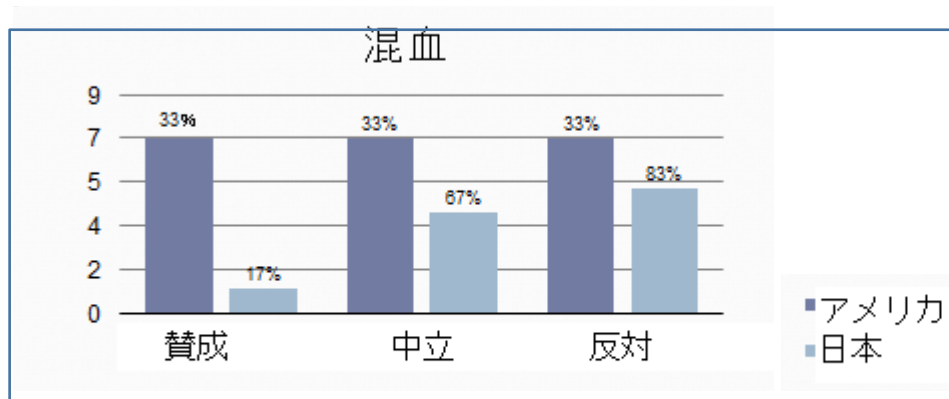
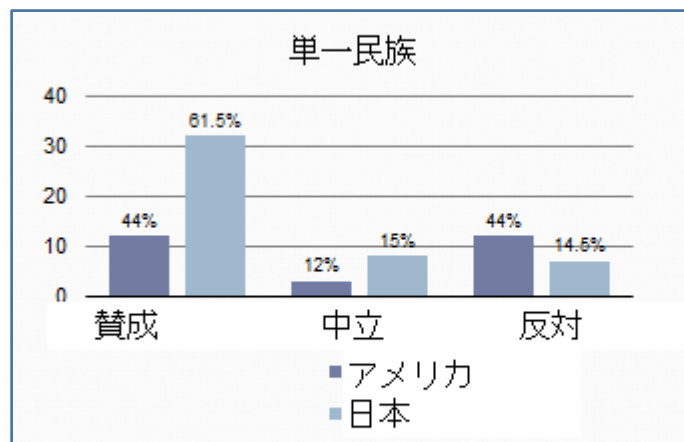


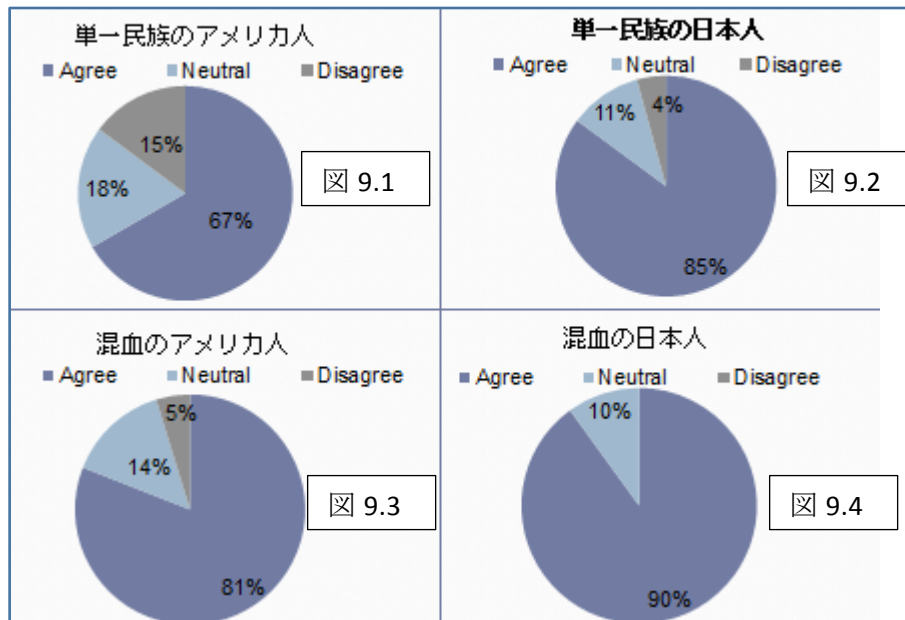
図 8: 私は現在アイデンティティーに関する葛藤はない。



二つ質問は似ているけど、図 7 は国際児にとっての質問で図 8 は単一民族についてだ。アメリカ人の 答えか にている理由はたぶんアメリカで多分化が多いからだ。しかし、

日本で、みんなは大抵日本人と認識するので、アイデンティティーを選ぶことは考えなかった。

図 9：自分の民族性と人種的アイデンティティーに誇りを持つことは重要



日本語と英語の両方の調査に参加した人の大多数は彼らの民族と人種のアイデンティティーに関して誇りを持つことが大切だと考えていると分かった。驚くべきことに、民族と人種のアイデンティティーに関して誇りを持つことが大切ではないと考える国際児の日本人がいなかった (図 9.4 参照)。日本人とアメリカ人はほとんどが愛国心を持っているからかも知れない。

図 10：子供のころに感じた自分のアイデンティティと今の自分に感じる

「アイデンティティは違う」

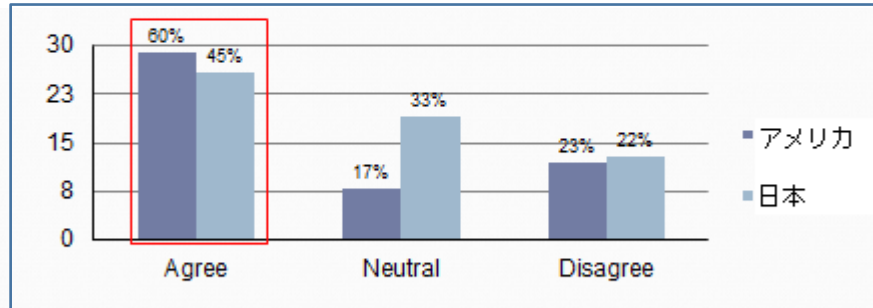
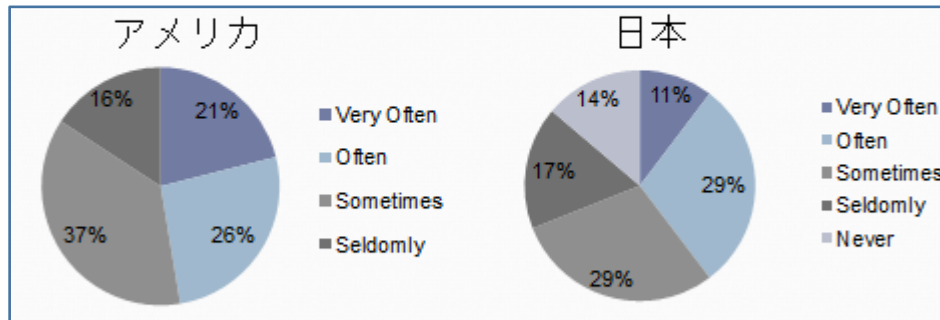


図 11：図 10 の参加者の書いた物

アメリカのアンケート	日本のアンケート
「大学に来た以来に自分のアイデンティティの誇りは減少した。ステレオタイプが多いから疲れたになったのに、同化したいと思う。」 (男性、21歳、混血)	「日本とアメリカのハーフですが、アメリカの学校に行っていた時に「アジア帰れ」と言われたことがある。でも日本にいる時は完全に外人と見られています。顔を見て、日本語を話せないとと思われることが多いです。」 (女性、27歳、混血)
「私は日本人のアイデンティティが嫌いだったけど、大学院に行ってハワイで生まれた日本人に会った。その時から、その人の影響と自分は大人になったのは今はもう鏡を見てそんなに悪くないになった。」 (女性、44歳、単一民族)	「ひどい劣等感を持っていたが、自身や友人、また様々のものを目にし、自身の生き方も一つの形だと認められるようになった」 (男性、30歳、単一民族)

好意的な答えも否定的な答えもあった。比較的に、アメリカ人の方がアイデンティティの感じ方が変わりやすいと分かった (図 10 参照)。アンケートで、自分の気持ちを書くところもあった。図 11 から分かったことは四人の意見である。書いた物で「今のアイデンティティは違う」を答えた人はアイデンティティが何度も変わった事。

図 12：あなたはこのアンケートに答える前に、自分の民族性と人種のアイデンティティーについて考えたことがありますか？



その結果として、個人にまつわるアイデンティティーの問題は、彼らがそれまでアイデンティティーに関して考えたことがないと言う事実起因していると考えられる。どちらの調査においても、大多数の人は「時々」という中立の回答をしていた。アメリカ人の参加者で「全くない」と答えた人はいなかった（図 12 参照）。

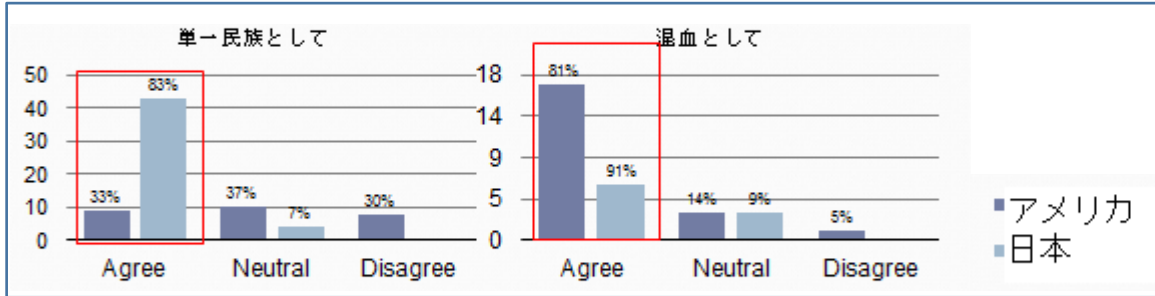
5.4. 研究質問 1 のまとめ

日本人はほとんど差別の問題について「中立」の考え方をしていると分かった。また、人々は大抵、民族と人種について誇りを持つことが大切だと考えていることも分かった。しかし同時に、たくさんの方は差別と彼らに対するステレオタイプな考え方の影響を受けてきている。アンケート調査に参加した人は「子供の頃に感じた自分のアイデンティティーと今のアイデンティティーは違う」と感じたが、日本人よりもアメリカの方が、アンケート調査に参加する以前の時点で、自分のアイデンティティーについて考えたことがあったということが明らかになった。

5.5. 研究質問 2：日本とアメリカでは国際児をどのように見ているのか、またその要因は何か。

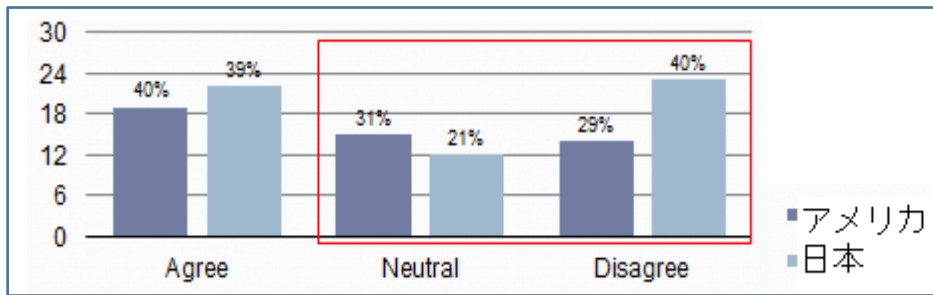
5.6. 人々の認識

図 13：多様な人種、民族に好意的な印象を持っている。



これは日本とアメリカにおける、混血としての結果を示すグラフである。そして隣が、両国の単一民族としての結果を示すグラフである。単一民族、あるいは国際的な背景を持つ人々の両方は、彼らの国際児についての認識は、その民族的あるいは人種的な環境から前向きな影響を受けていると考えている（図 13 参照）。

図 14：混血の人は少数派だと思う



先の研究背景において、私は”One Drop Rule”を紹介した。この質問はその考え方に関して問うものである。しかし、“One Drop Rule”と言う考え方に対して、多くの人は反対だった。

図 15：メディアを通して混血の人を見ることは重要だと思う。

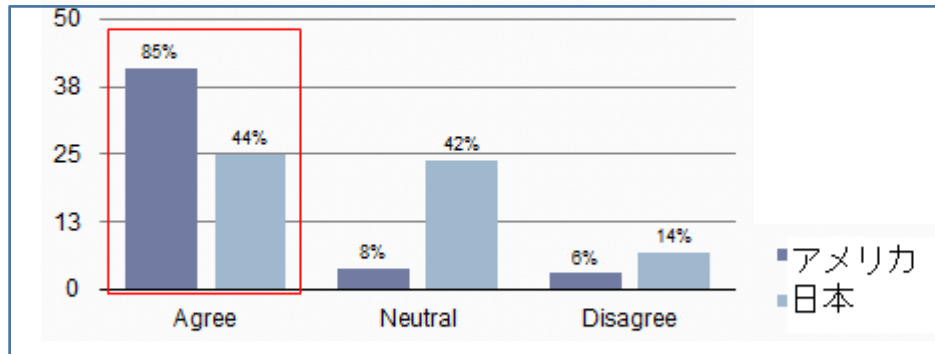
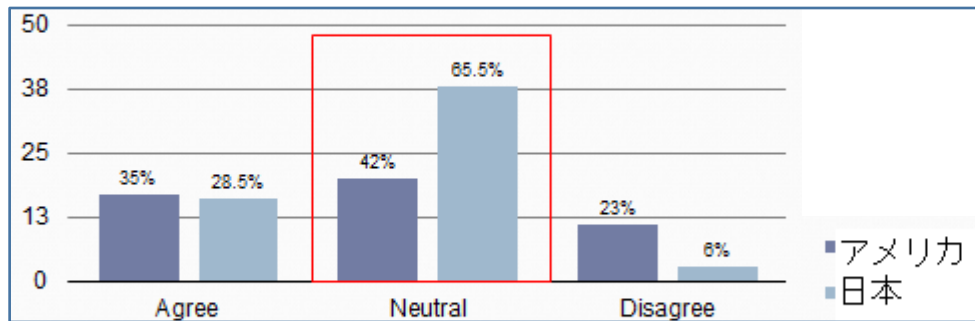
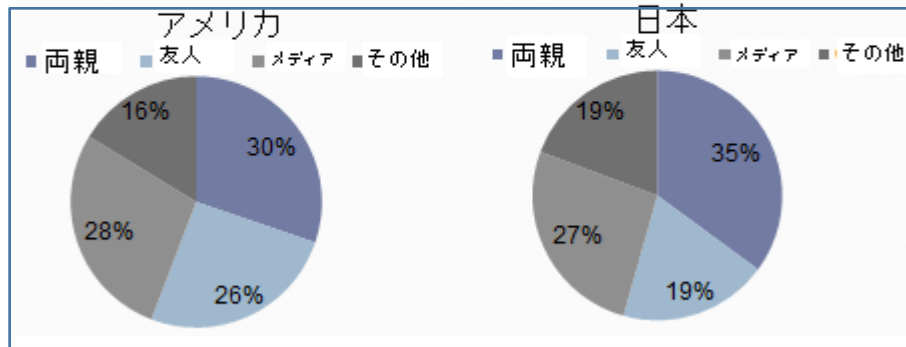


図 16：私は自分と同じような民族性と人種を持つ人を尊敬する。



このスライドには、二つの似ている質問がある。参加者は大抵「メディアを通して混血の人を見ることは重要」であることに賛成しましたが、「私は自分と同じような民族性と人種を持つ人を尊敬する」という質問に関しては中立の意見を持っている。これは非常に興味深いである。なぜメディアがそんなに大事なのか。 また、自分と同じような民族性と人種を持つ人を尊敬しないということが、私には理解できない。

図 17：あなたの人種、民族に対する意見や考え方は何に基づいていますか。



両方のアンケートにおいて、多くの「その他」を選んだ参加者は、「全部」という回答をした。他の回答としては「自分の海外生活の経験」、「これまでの価値観」、「本」などである。

図 18：自身の民族性と人種がメディアで取り上げられた時に一番強く思い出すことを書いてください。

アメリカ人	日本人
「中国人にとってジャッキー・チェンとブルース・リーはカッコいいイメージをするけど、私と見ると中国人じゃなく人は私はカンフーをしてると思った。」 (女性, 52歳, 単一民族)	「テレビでモデルだけじゃなくて、ジャーナリストのハーフ人を見て、私はとても喜びました。ハーフはモデルだけじゃないと確認しました！」 (女性, 28歳, 混血)
「私の民族はメディアであまりないと思います。でも、自然災害の時フィリピンはいろんなニューステレビ番組で見られます。」 (女性, 19歳, 混血)	「トルコのことメディアに取り上げられたときは嬉しい気持ちになる。また、他にも難しい立場にあるときはその対策を日本より親身になって考えることがよくある。」 (女性, 20歳, 混血)
「black twitter」はいつも白人はまったく違う存在として見られることがある。そのTWITTERは白人は学校で人を撃つとかいじめをする人を殺すということを定期的に。私はいじめられていたけど、そのことを絶対やりたくない。」 (男性, 22歳, 単一民族)	「ジブリ作品「風立ちぬ」で特攻兵が戦場に乗り、並んで飛んで行くシーンを見て、悲しさや誇りや勇気など色々な感情が湧きました。」 (男性, 23歳, 単一民族)
「Benicio Del Toro」という俳優がすごく好きです。その俳優は様々なアワードをもらったから、ヒスパニックの人はやっぱり成功ができます。」 (男性, 55歳, 単一民族)	「日本人についてのテレビ番組で、日本人の性格について外国人が話していた。特徴として、謙虚、思いやりがある、簡率的と言われていた。」 (男性, 26歳, 単一民族)

ここでは自分の気持ちを書いてもらった。アメリカ人の方がよくない思い出が多かった。日本映画ではほとんど日本人しか出演していないため、参加者はあまり書かなかった。

アメリカで映画もほとんど白人しか出演していないが、様々な民族がいるのでアメリカ人はもっと思い出すことができた。

5.7. 研究質問2のまとめ

現代の日本人とアメリカ人は、多様な人種と民族に対して、好意的な印象を持っていると考えられる。そして、単一民族人と国際児も、同じ気持ちを持っている。このアンケートの参加者は一般的に多文化主義に対して好意的な印象を持っている。一つの大きな要因はメディアだが、一番大きな要因は個人の間人間関係である。具体的には、両親や友人などが大きな影響を与えている。

6. 結論

私はこのキャップストーンを始める前は日本人は多文化主義について、オープンな考え方を持っていないと予想していたが、違うということが分かった。そして、場合によっては、アメリカ人よりもオープンな考え方を持っていると分かった。混血でも単一民族でも、両者ともステレオタイプな考え方と差別を受けたことがある。また、アイデンティティーを見つけることについてメディアは確かに大きな影響を持つが、一番強い影響は人間関係だということも分かった。

7. 研究の限界点と将来の研究課題

一番大きな問題は、アンケート調査に参加した日本人の大多数が、混血ではなかったことである。そのため、多くの質問に関して、事実を見極めることが非常に困難だった。特に、国際児へのいじめや、差別などについての質問がそれである。

参考文献

Aksar, Y. (2004). *Implementing Intl Humanitaria: From the AD Hoc Tribunals to a Permanent International Criminal Court*. London and New York, NY: Routledge.

- Aoyama, E. (2009). Marginalization and Veneration: The Contradictions in Perception of Japanese Biracial Celebrities. *Washington University Press*, (13-25) Retrieved October 14, 2014.
- Arudou, D. (2010, October 5). Census blind to Japan's true diversity. Retrieved October 14, 2014. (Central Intelligence Agency)
<https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/xx.html>
- Die Kreuzungsstelle Column Haafu(Hafu) or Daburu. (n.d.). Retrieved January 29, 2015, from http://www.kreuzungsstelle.com/HAAFU_or_DABURU.html
- Emmott, B. (1993). *Japanophobia: The myth of the invincible Japanese*. New York, N.Y.: Times Books.
- Fulbeck, K. (n.d.). The hapa project. Retrieved March 23, 2015, from <http://kipfulbeck.com/the-hapa-project/>
- Gerhold, P. (n.d.). JapanToday. Retrieved January 29, 2015, from <http://www.japantoday.com/category/lifestyle/view/the-top-10-words-to-describe-japanese-people-according-to-foreigners>
- Haefelin, A. (2012). ハーフが美人なんて妄想ですから!!: 困った「純ジャパ」との闘いの日々. Tōkyō: Chūōkōronshinsha.
- Ikakiri, M. (2014). いじめ対応とトラウマケア. Management and Trauma Care of "Ijime"
- James, M. (2008). Race. Retrieved March 5, 2015, from <http://plato.stanford.edu/entries/race/>
- Kawagoe, A. (n.d.). The Ijime Mondai in Japan vs. Worldwide Bullying Problem. Retrieved October 14, 2014.
- Kellner, D. (2011). Cultural Studies, Multiculturalism, and Media Culture. In *Gender, race, and class in media: A critical reader* (3rd ed.). Thousand Oaks, Calif.: SAGE Publications.
- Kikumura Yano, A. (2008). Contemporary Issues Facing Japanese American Communities. Retrieved March 13, 2015, from <http://www.discovernikkei.org/en/journal/2008/2/14/copani-knt/>
- Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan. 2011. Survey of work-related diseases. Retrieved October 28, 2014. www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/anzeneisei11/h23.html [4 Mar. 2013].
- Nakashima, T. (2001). *The Diversity of Biracial Individuals: Asian-White and Asian-Minority Biracial Identity*. In *The sum of our parts: Mixed-heritage Asian Americans*. Philadelphia: Temple University Press.
<https://digital.lib.washington.edu/researchworks/bitstream/handle/1773/15585/Aoyama.pdf?sequence=1&isAllowed=y>
- Navidi, N. (2010). 'Hafu' draws viewers into world of Japanese identity. Retrieved October 14, 2014. http://hafufilm.com/wp-content/uploads/2010/07/Hafu-draws-viewers-into-world-of-Japanese-identity-_The-Japan-Times-Online.pdf
- Nagayoshi, K. (2011). Support of Multiculturalism, But For Whom? Effects of

Ethno-National Identity on the Endorsement of Multiculturalism in Japan
(4th ed., Vol. 37).

Taki, M. (2003). 'Ijime bullying': Characteristic, causality and
intervention. Retrieved October 14, 2014.

Williamson, D. (2003). UNC News -- Students of mixed races report suffering more health
problems. Retrieved October 14, 2014.

理恵, 河. (2006, July 26). 大学院授業「日本人論と日本事情」におけるアイデン
ティ概念. Retrieved October 14, 2014.

マーフィ重松, S. (2002). アメラジアンの子供たち: 知られざるマイノリティ問題.